Architectural Institute of Japan

5171

日本建築学会大会学術講演梗概集
(東　北)　1991 年 9 月

正会員 ○ 平根　孝光＊1
吉田　あこ＊2
櫻庭　晶子＊3

# 聾学校の学部別教室ゾーン構成の現状

## 聾学校の建築計画に関する基礎的研究 1

□はじめに

聾学校は、各校によってその構成は異なるものの幼稚部、小学部、中学部、高等部（年齢にして４～２０才まで）という学部構成を有し、さらにその各学部が同一敷地内に設置されるという特殊性をもつ。この特殊性をもつがゆえに、学部間のゾーニングが不明確なものとなりやすい。

本報告は、聾学校の中でも全学部が設置されている大編成校について、学部間のゾーニングの状況を分析し、聾学校の建築計画に資することを目的とする。

□調査の方法

聾学校は、全国に１０８校あり、約８，１００人の幼児・児童・生徒が就学している。（図１・表１）その１０８校全校を調査対象校とし、郵送により配置図・平面図・面積表・学校要覧等の資料を求め、そのうち１０４校（96.3%）の資料を得ることができた。

□分析対象校

聾学校１０８校の学部構成は、表２に示すように９タイプに分類することができる。なかでも最も多いタイプは、全学部が設置されている大編成校で約６割を占め、次いで幼稚・小学・中学部の３学部編成校が約２割となっている。それ以外に７タイプ１９校あるが、そのうち７校が分校であり、またそれぞれタイプの校数も少ないものとなっている。

本稿は、この約６割を占める大編成校６６校のうち資料の整っている５８校（87.9%）を分析対象校とし、学部間の教室ゾーンの混成状況を分析したものである。

□教室の配置棟数別校数

教室ゾーンの混成状況を捉える場合、教室が配置されている棟数によって混成度合も違ってくる。表３は分析対象校の教室が配置されている棟数を示したものであり、２棟校が２２校（37.9%）と多いものの１棟～４棟校まで分散している。以下、この教室の配置棟数タイプを軸に混成状況について述べる。

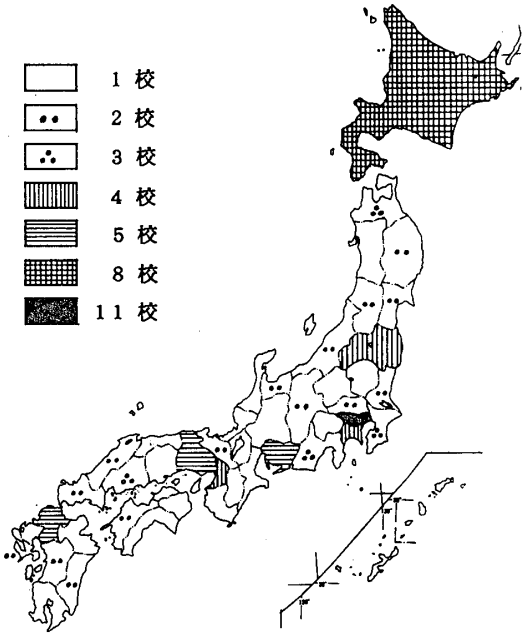



図１　聾学校の都道府県別設置状況

表１　聾学校数

（）は分校

| 国立 | 都道府県立 | 市立 | 私立 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 100 (8) | 6 | 1 | 108 (8) |

表２　学部構成タイプ

（）は分校

| | 学部構成タイプ | | | | 学校数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 幼 | 小 | 中 | 高 | |
| A | ○ | | | | 2 (1) |
| B | ○ | ○ | | | 6 (5) |
| C | ○ | ○ | ○ | | 23 (1) |
| D | ○ | ○ | ○ | ○ | 66 |
| E | ○ | | | ○ | 1 (1) |
| F | | ○ | ○ | | 2 |
| G | | ○ | ○ | ○ | 1 |
| H | | | ○ | ○ | 1 |
| I | | | | ○ | 6 |
| 計 | | | | | 108 (8) |

表３　教室配置棟数別校数

| 棟構成 | 1 棟 | 2 棟 | 3 棟 | 4 棟 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 分析対象校数 | 7 | 22 | 16 | 13 | 58 |

Outline of Mixed Composition for Classroom Zone in The Deaf School

5171

A Basic Study on Architectural Planning for The Deaf School 1　　Takamitsu Hirane et al.



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

□棟別教室ゾーンの混成状況

表４は、大編成校全体での棟別の混成状況を示したものである。混成なしは４棟校の１０校（17.2%）のみであり、全体で８割強が混成状況にある。

その混成内容を示したものが表５で、混成タイプは、２棟校で８タイプと最も多く、３棟校で５タイプ、４棟校で２タイプと棟数が多くなるにつれ少なくなっている。それを各棟校別にみると次のようになる。

◇２棟校では、中学＋高等部、幼稚＋小学部で４割と多いものの、３学部以上（２学部であっても年齢差が３学部に相当するものを含む）の混成が４４棟のうち１６棟（36.4%）と高い割合を示しているのがわかる。

◇３棟校は、２棟校に比べ幼稚・小学・高等部の単独棟は多くなるものの、２学部以上の混成が２１棟（43.8%）３学部以上で４棟（8.3%）の混成がみられる。

◇４棟校は、４学部単独棟の構成が可能であるが、２学部混成も３校（5.8%）みられた。

□フロア別教室ゾーンの混成状況

フロア別では、全体の約５割の学校に混成がみられ、棟数の少ないほど混成度合は高くなっている。（表６）

つぎの表７でその混成タイプをみると、５タイプに分けられる。全体としては、中学＋高等部が１６フロア、幼稚＋小学部１４フロア、小学＋中学部８フロアの順で多くなっており、これら２学部タイプで約９割を占めている。しかし一方、小学＋中学＋高等部及び小学＋高等部の３学部混成も４フロアみられた。

□まとめ

各学部間の適正かつ明確なゾーニングは、年齢差が大きくなほど十分考慮されねばならないが、特に３学部以上にわたる教室ゾーンの混成が、棟別だけでなくフロア別にもみられたことにおいて、聾学校の特殊性の一端を知ることができた。

このことは、数名という学級の人数構成、少学級編成の学部構成という規模的要因、また学級の増減がわずか数名の増減によって、又は重複障害児の有無によっても影響を受けるといった人的要因等の聾学校の特殊性によるものと思われる。それらの特殊性を明らかにしていくのが今後の課題である。

本研究は、平成２年度文部省科学研究費（一般Ｃ代表平根孝光）を受け、調査分析にあたって聾教育学の小畑修一教授を共同研究者として参加を得て行った。又、全国の聾学校長からは、調査への多大な協力をいただきました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

表４　棟別混成校数

（%）

| 棟構成 | １棟 | ２棟 | ３棟 | ４棟 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 分析対象校数 | 7 | 22 | 16 | 13 | 58 |
| 混成校数 | 7 (100) | 22 (100) | 16 (100) | 3 (23.0) | 48 (82.8) |

表５　棟別混成タイプ

数値は校数

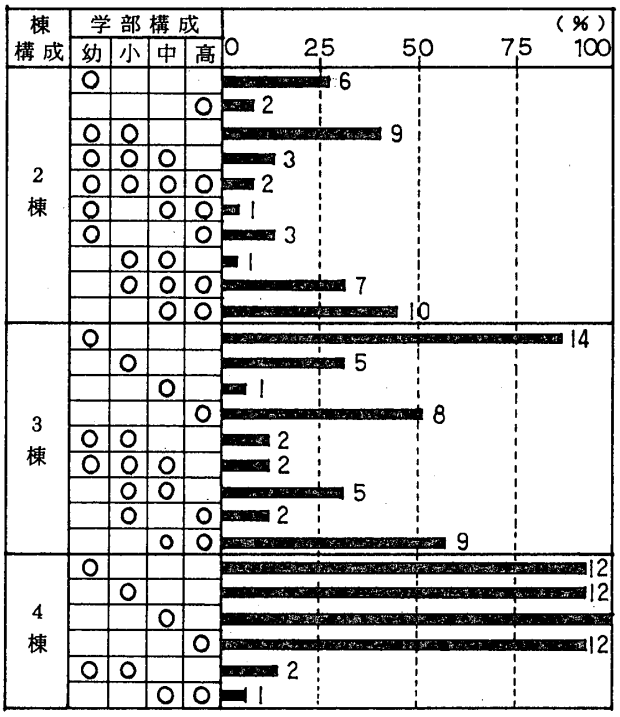
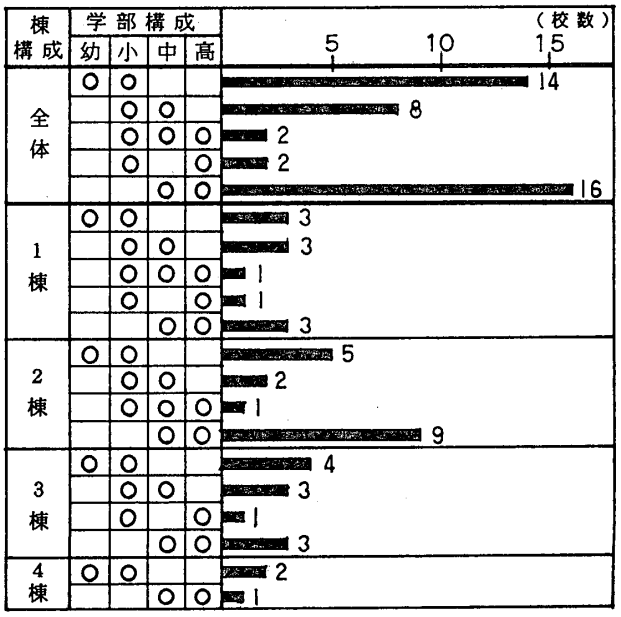



表６　フロア別混成校数

| 棟構成 | １棟 | ２棟 | ３棟 | ４棟 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 分析対象校数 | 7 | 22 | 16 | 13 | 58 |
| 混成校数 | 7 (100) | 14 (63.6) | 7 (43.8) | 3 (23.0) | 31 (53.4) |

表７　フロア別混成タイプ




＊１筑波技術短大助教授　＊２同教授・工博　＊３同助手



NII-Electronic Library Service